

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4095500072		
法人名	株式会社友愛会		
事業所名	グループホーム友愛		
所在地	福岡県宮若市宮田191番地6		
自己評価作成日	平成29年1月16日	評価結果確定日	平成29年2月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成29年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念のとおり、お互いに尊敬と感謝の心を持って接し、そのらしさを大切にしています。帰宅願望がある時は、一緒に外に出るなど職員の都合ではなく、利用者に寄り添った対応を心掛けています。転倒骨折した方も、家族と一緒に立位練習を行い、活動的になりました。立ちあがるということ、はリスクが高くなることを家族に十分に説明し、ご理解いただいた上で、「再び歩きたい」という、本人と家族の思いを大事にしています。利用者の状態の改善を目標にした、心身機能活性運動療法も引き続き行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から4年を迎えたグループホーム友愛は、理念にあるそのらしさをホームの暮らしに見つけながらケアに取り組んでいる。「なぜ入居者がその行為をするのかを考えること、大切なことは入居者を思ってすること、ただ知識として知っていることではない」とミーティングで話し合い、職員は日々の関わりの中で入居者の思いや意向の把握に努めている。先日急逝された方は、医療関係者と連携しながら、本人や家族の納得した看取りを支援している。職員は「会いたいと思っていたお姉さんにも会えて、美容院に行った直後で、あの方らしい亡くなり方でした。」と話している。近隣の母体事業所での餅つきが恒例となり、自治会役員や警察署、消防署等の参加する運営推進会議で情報や協力を得ながら、今後も理念のそのらしき暮らしの継続が期待されるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホーム友愛**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の時に、皆で理念を唱和して、共有のものとしており、入居者が安心して暮らせるよう実践に努めています。	理念にあるその人らしさをホームの暮らしに見つけながら、ケアに取り組んでいる。管理者は入居者の気持ちを優先するように職員に伝えるなど、理念の具現化に努めている。保育園児など地域との関わりを楽しむ入居者の姿を見ることが嬉しいと職員は話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の山笠や盆踊りは毎年ホームまで来て下さり、交流をしています。ホームからは自治会、子供会を餅つきに招待しています。七夕の時は、民生委員さんが紹介して下さい、保育園とも交流をしました。	近隣の母体事業所での恒例の餅つきは、子ども会から約20名の参加があり、保育園と交流した七夕では、入居者の笑顔が満開になっている。誕生会等には近隣のボランティアの合唱があったり、近所の方からは庭の花が咲いたよとのお誘いがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人とや支援の方法を、運営推進会議や来所された時に伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前2カ月間の状況を報告しており、くださった意見をサービス向上に活かしています。保育園との交流も会議の時に話があり、民生委員さんが紹介して下さいました。	開催日をほぼ固定化して、全家族に案内をしている。毎回家族の参加があり、会議では自治会役員や警察署、消防署等から、災害や詐欺等の種々の情報提供がある。会議録は玄関に掲示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や消防署、警察署も運営推進会議に参加会社として徘徊ネットワークに参加しており、家族との相談の結果、現在2名の入居者を登録させてもらってます。	加入している地域同業者協議会のGHみやわかの研修会等で、市担当者や地域包括支援センターと連携している。毎月、地域包括支援センターと居室の空き情報や入居依頼などの情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などを通して身体拘束について学ぶ機会を作っており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	GHみやわかの研修会には職員が交代で参加し、職員ミーティングでは、「なぜ、入居者がその行為をするのかを考えること、大切なことは入居者を思っていること、ただ知識として知っていることではない」と話し合い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを通して高齢者虐待防止について学ぶ機会を作っており、虐待防止に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを通して、権利擁護について学ぶ機会を作っています。入居時以外でも必要に応じて再度、制度について話し合いをして支援しています。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料を整備し、入居契約時に制度や窓口の説明をしているが、活用されている方はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結などの際は、利用者や家族等が理解・納得できるよう、十分な説明を行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時に入居者の状況を説明し、意見や要望を聞くようにしています。運営推進会議でも意見をもらっています。入居者には日頃から意見を取り入れるようにしています。	玄関に意見箱を設置しているが、意見等はない。入居者の食事介助や歩行訓練に通って来る家族もあり、率直に意見や要望を言ってもらえるよう努めている。写真が見たいとの家族の意見で、入居者の写真をファイルにまとめ、来訪時に見ていただいている。	さらに家族等の意見を運営に反映するために、行事や入居者の暮らしぶりを掲載したホーム便りの発行を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長も毎月のミーティングに参加され、職員と意見交換しています。	定期的なミーティングは、職員の意見で日勤帯で実施され、担当する入居者の状況を報告し、意見交換や情報の共有をしている。また、日勤の職員が話し合い、支援のやり方を変更をしたり、タオル等の置き場所を変えたりすることもある。職員の提案でミキサーや掃除機、カメラ等が購入されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	朝礼やミーティングに施設長も参加しており、職員の勤務状況などを把握しています。研修や資格取得などにも柔軟に対応しています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由に排除していません。職員の特技が活かせるように配慮しています。事前に希望休を聞き、社会参加などが出来るよう配慮しています。	開設当初から入居している職員も多く、定年制は無いが、体力等を考慮して常勤でなく非常勤として就労する職員もいる。新人研修や年間研修計画が実施され、働きながら資格取得を奨励し、今年も2名の職員が介護福祉士を受験している。資格手当や年度末手当等で職員の意欲を応援し、外部研修の参加は職命としている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼やミーティング、研修などを通して人権教育について取り組んでいます。	行政が主催する講演会やGHみやわかの研修会に職員が交代で参加し、ミーティングで伝達研修をしている。日頃から尊敬の念を持って支援するように話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握するように努めています。研修も出来る限り参加できるように、資格取得なども進めています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎月、宮若市内のグループホーム集まった会合に参加しています。各種研修や実践報告など、お互いに質を向上させれるようになっていきます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始時は特に気を付け、声かけ・傾聴等、行いながら本人に寄り添い、安心できるように努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始段階から、家族に要望等を探るなど信頼関係づくりに努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する前に、グループホームの特徴などを説明しています。他のサービスを含め、施設見物などを勧めるようにしています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護されるだけでなく、日頃から出来ることはしていただくように声かけをしています。調理方法など入居者から教えていただくこともあり、共に暮らしている関係を築くようにしています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の出来る範囲で、通院や外出支援など協力をお願いしています。食事介助や立位練習などをしに来てくださる家族もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人などよく来所してくださいませ。職員による外出支援だけでなく、家族の協力もあり、外出や外泊される入居者もおられます。	家族が食事介助や歩行訓練に通って来られたり、誕生会に参加されたりしている。先日急逝された入居者は、会いたいと話していたお姉さんに会えるように支援したり、美容院に送迎している。職員とお正月や豆まきにお参りに出かけることもある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないようにレクリエーションなどで関わりあえるように支援しています。入居者同士も声かけ合い、見守りをして下さることもあります。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、関係性を大切にして、支援や相談など必要に応じて支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の意向を把握するように努めています。来所された家族に本人の好みなどを尋ねたり、職員が検討したことを相談したり、本人の希望に添えるようにしています。	職員は担当する入居者の衣類や居室の整理に関わりながら、把握した意向をミーティングで共有している。ハンバーガーを食べてみたい等のすぐには実行できることは、希望を叶えている。本人が意向を表出できない場合は、家族に尋ねている。	入居者の暮らしの経過が把握できるように、把握した意向等の情報をアセスメントシートに追加記入をお願いします。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞くなどして把握するよう努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の見守りや観察から現状の把握に努めています。把握した情報を職員同士で共有するように努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の生活に加え、モニタリングやミーティングの内容、Drの意見をもとに、本人・家族と話し合いをして現状に合った介護計画を作成しています。	介護日誌の表紙の裏に入居者の目標を入れて確認できるようにしている。担当職員が毎月実施したモニタリング結果や気づきをミーティングで話し合い、担当者会議には複数の職員が出席して現状に即した介護計画が作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは記録として、職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応するよう、出来る限り取り組んでいます。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年々お年をめされ出来ることが少なくなってきているが、ボランティアさんを招いたり、地域の行事に参加するなど、豊かな暮らしを楽しめるように支援しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるように、本人と家族が納得された病院にかかっており、良好な関係を築いています。2週間に一度の定期的な往診があり、体調不良時にはその都度、受診しています。	入居前のかかりつけ医の継続も可能で、多くは協力医療機関からの2週に1回の訪問診療と、看護師による健康チェックで適切な医療が受けられるように支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように、職場の看護職員や病院の看護師に状況を伝え相談できるようにしています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院関係者とは良好な関係づくりに努めています。入院時には病院関係者と情報交換や相談をして、安心して治療でき、早期退院できるように支援しています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所としてできること、方針を説明しており、意思確認書をいただくようにしています。医師や看護師とも相談しながら、支援しています。	入居契約時に重度化や終末期に向けた方針を説明し、状況変化に応じた話し合いをしながら、協力医や訪問看護事業所と24時間連携し、看取りを支援している。事前に聞き取りした希望に沿って、先日は本人や家族が納得された最後を迎えた入居者がある。初めての看取りに勉強になったと話す職員もあり、家族からの謝辞を教訓にしながら、今後も看取りを支援する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い、利用者の急変や事故発生時に備えています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルをもとに、消防署が立会くださり、年に2回、消防訓練を行っています。訓練時に火災通報装置の不具合が見つかるなど、実際に使ってみなければ分からないことが分かり、有意義なものになっています。	消防署の協力を得て、年に2回、避難訓練を実施しているが、運営推進会議の日に合わせて実施し、メンバーも一緒に参加したり、実際に消火器を使った訓練を行っている。母体事業所主催の救急蘇生法やAED取り扱いに関する研修会には、自治会や家族の希望者も参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、個々にあった対応に努めて、安心して生活を送っていたるように努めています。	自分の洋服を職員に扱われるのがイヤな方や、白内障で日光が眩しく感じる方等、一人ひとりの個別性や思いを考慮して対応に努めている。本人や家族の了解を得て、同じ苗字の方には、下の名前呼びかけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の希望が表現できるように支援しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事時間など出来る限り本人の希望に添えるよう支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問散髪があり、出来る限り本人の好みに合わせて切っていただいています。 外出時にはお化粧をされるなど身だしなみやおしゃれができるように支援しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みを把握し、嫌いな物を別の物に替えて提供しています。 台ふきなど準備や片付けをして下さったり、調理方法や味付けを教わったりと、食事を楽しめる様出来る範囲で支援しています。	体調次第で居室で食事を摂ったり、リビングで職員と一緒にゆっくりと食事を楽しみながら、状況に応じてその方の食欲が増す声かけをしている。年数回外出に出かけ、バラの見学の後はかんぼの宿での食事が恒例になっている。誕生会ではノンアルコールのビールを提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行い、確保に努めています。少ない時は本人の好みの物などで代替えています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて声かけ、介助して口腔ケアを行っています。週に1回、訪問歯科があり、口腔内の清潔保持に努めています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄できるように、個々の能力の応じて支援しています。出来る限り布パンツを目指し排泄の支援をしています。	2名の方がオムツを使用しているが、尿意や便意のある方も多く、個々の排泄パターンを把握しながら、トイレでの排泄を支援している。夜間もトイレに誘導し、トイレ内に暖かいタオルを準備している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、日頃から水分摂取に気をつけ、食物繊維も摂取しています。体操や立位・歩行練習など運動支援もしています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	外出や行事、本人の体調によって柔軟に変更していますが、週3回は入浴できるように支援しています。	週3回を目途に午前中から入浴を支援している。入浴を拒否する方には、時間を置いたり、職員が変わることで対応できている。順番で争うことは無いが、ゆっくりと浸かりたいので最後がいいと言われる方には最後に入浴していただいている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の安眠を阻害しないように、気持ちよく眠れるように、本人の体調やその時々状況に応じて支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用など理解するようにし、個々の薬の管理と服薬の支援しています。症状の変化の観察し、主治医と相談し支援に努めています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の性格や興味を把握し、テーブル拭きなど役割を持てるように支援しています。趣味や楽しみごとなど喜びのある生活につながるよう、出来る限り支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブや買い物、外泊など、家族の協力を得るなどして、出来る限り本人の希望に添えるように外出支援しています。年一回、若松のバラ園に出掛、海を見て、かんぼの宿での昼食に出かけています。	車イス利用の方も多いが、法人の福祉車両を活用して自宅に外泊されたり、家族と協力しながら外出を支援している。職員の外出先や食材買い出しに同行されたり、暖かい日には近隣のお宅の庭を見物したり、外でおやつを提供して楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じて、お金を所持し、使われています。お金を持つことの大切さを理解し、支援しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族や知人へ電話出来る様支援しています。出来ない部分は代筆、代読などで支援しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、壁に展示をして季節を感じられるようにしています。天井が高く開放感があります。太陽光を取り入れやすい作りになっています。冷暖房機などで不快なく過ごせるようにしています。	玄関前には大きな紅梅の鉢植えが置かれ、玄関には水仙が活けられお雛様の飾りつけが始まるなど、春の到来を告げている。天井が高く明るいリビングの中央に大きなテーブルやイス、周りにソファを配置し、どこでも寛げるように設えている。トイレや浴室は空調や防臭に配慮し、居心地よい共用空間作りをしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは中央のテーブルの他、周辺にソファやカウンター席もあり、一人一人の状況に合わせて過ごせるように支援しています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものや好みのもを持ちこまれるなど、居心地良く過ごせるように支援しています。	居室の入口に名札をかけて居室間違いを防いでいる。衣類などはクローゼットに整理され、仏画や本人が趣味で作成した絵画、写真、加湿器やテレビ、ソファを持ち込んで、安心して過ごせる部屋づくりをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	廊下には手すりがあり、立位や歩行を支援し出来るだけ自立した生活を送れるようにしています。夜間は足元灯がつき、安全に歩行できるように支援しています。		